

自己評価公表

【幼稚園の概要】

令和6年度は、年少児107名（満三歳児含む）、年中児90名、年長児119名の計316名で迎えた。

利用者調査 NO.3「園は、お子さんを理解し、一人ひとりの性格、個性に配慮しながら関わっていると思いますか」の問いには、87%の保護者が「思う」と回答している。

本園は、すべての子に「楽しい幼稚園」を。保護者や地域の方々に「信頼される幼稚園」を。全教職員が「誇り、誇れる幼稚園」を目指している。

【教育目標】

一人一人を尊重し、心身ともに健康で心豊かな幼児の育成を目指し、次の目標を設定する。

- ① 明るく元気な子
- ② 思いやりのある子
- ③ 進んでやりぬく子

【教育目標を達成するための基本方針】

幼稚園教育において育みたい資質・能力を総合的に育てられるように、幼児理解と環境構成に努め、幼児の主体的な活動を重視した教育を行う。

- ① 「明るく元気な子」の実現のために

【じょうぶな子を育てる保育】

本園は、園庭、アスレチック広場、畑を有している。気候のよい時期には、登園後から外遊びをしたり、保育カリキュラムの中にたくさんの主体的な外遊びを組み込んでいる。しかし、近年の気候の変動や天候不順により、外遊びができない場合が多く、教職員間で話し合い、今年度から室内遊びが可能な遊具を取り入れ（エア―遊具、サーキット活動）、教育・保育の環境設定に配慮した。

「成果」

室内でできるエア―遊具を使い、クラスを少人数のグループ分け、それぞれが主体的に様々な動きをおこなった。子供達の中から、「体がふわふわして宇宙にいるみたい。」まっすぐ歩くのが難しいね」「高く跳ぶにはどうすればいいのかな」「寝転がったらどうなるかな」と遊びの中から「なぜなぜ？」と疑問が出た。

エア―遊具の中では地面とは少し違う感覚で、身体をひねってみたり、ふわふわ歩いてみたり、様々な動きをして遊んでいる。

また、エア―遊具遊びは、遊具の中で遊ぶだけではなく、設営から片付けまで子供達は興味津々で、空気を入れて膨らむ、空気を抜くと縮む過程を観察して知ることができる。「空気ってなに？見えないけど・・・」「なんでこんなに膨らむの？」と教職員は子供達が興味関心を持てるような声掛けを工夫している。

外遊びができる時期は、たくさん園庭で身体を動かし、また、外遊びに適さない時期には、室内でのエア―遊具やサーキット活動でたくさん身体を動かすことができた。また季節に関わらず、運動後は十分に水分補給をし、体力・体幹をしっかり育てている。

② 思いやりのある子をそたてるために

【やさしい子を育てる保育】

一人一人の個性を伸長するために、個別指導計画や個別支援計画の配慮事項に基づいてチーム保育を推進する。また、学級経営の中で、互いに認め合える温かい人間関係を築けるように保育者が温かい人間関係のモデルを示している。

「成果」

利用者調査 NO、2 「園は子供が進んで挨拶ができるように配慮し、工夫して指導していると思いますか。」の問いには、78%の保護者が「思う」と回答している。園長が毎朝門に立ち、朝のごあいさつ「おはようございます」帰りには「さようなら」をお子さんや保護者と一緒におこなっている。登園・降園でのあいさつ、バスの担当者とのあいさつをさらにできるように担任、担当者に指示している。保護者の方とのあいさつも大切にしている。教職員のめあてとして「あいさつ、かんしゃ、おうえん」をかかげ日々の保育にあたっている。

利用者調査 NO、3 「園は、子供同士に関わりがもてるように指導していると思いますか。」の問いには96%の保護者が「思う」と回答している。各学級24～30名程度の人数で教育・保育活動をおこなっている。自由遊び、製作活動、スポーツ、外遊び、お弁当等集団での取り組みを行い、子供同士の関りがたくさん持てるよう工夫している。

③ 思いやりのある子の実現のために

【よくかんがえる子を育てる保育】

本園は、園庭、アスレチック広場、畑を有しており、園の特色として年間を通しての畑の農園活動がある。

利用者調査 NO,7 「園は特色のある教育として、畑を使った栽培活動、収穫体験は

大切だと思いますか」の問いに98%の保護者が「思う」と回答している。

「成果」

昨年度の課題を踏まえ、今年度は四季折々に、いちご、朝顔、じゃがいも、さつまいも、大根の種まきから収穫まで、そしてその収穫物（じゃがいもやさつまいも）を調理し試食するまでの一連の体験を経験できた。今年度は、さつまいものつるを切ることを子供達を経験し、それを教職員が粉碎機で粉碎し土の肥料にすることを学んだ。

さらに園児自ら草刈りや水やり等の世話をし、植物や生物の観察等を行い、飼育や世話を通して園児が主体的に自然環境に触れる機会をより多く取り入れた。

「課題」

教職員の振り返りの中で、来年度以降は、畑の作物以外にも、葉や枝、実や土などの自然物を使い、それらを使った製作物などを作れないか教諭間で検討している。

【評価結果の公表等】

令和7年1月31日 本園ホームページ内ニュースに公表した。